

次の文を読み 1～3 の問いに答えよ。

A さん（23 歳、女性）は、2 週間前くらいから疲れやすさと腰背部痛を感じていた。月経が始まると、出血量が異常に多く不安を感じた。微熱も続いていたため、受診したところ白血球数が $40,000/\mu\text{L}$ あり、血小板数も $2,000/\mu\text{L}$ であったため、入院した。

- 1 検査の結果、急性前骨髄性白血病（APL）で播種性血管内凝固症候群（DIC）の合併があると診断された。診断後、ただちに全トランス型レチノイン酸（ATRA:all-trans retinoic acid）による分化誘導療法が行われ、完全寛解を目標に化学療法が実施されることになり、シタラビンによる化学療法が始まった。A さんに同時に使用される薬剤はどれか。
 1. インターフェロン
 2. G-CSF
 3. リファンピシン
 4. バンコマイシン
- 2 完全寛解導入が成功し、寛解後療法として、シタラビンの大量投与による地固め療法が始まった。A さんは「いつまでこの状態が続くのですか」と不安そうである。このときの看護師の最初の対応として適切なのはどれか。
 1. 「もう少しですから頑張ってください」
 2. 「あと何日だったら我慢できそうですか」
 3. 「主治医からもう一度説明してもらいましょうね」
 4. 「つらいのですね。少しお話ししましょうか」
- 3 A さんは髪の毛の抜ける量が多いと気にしている。A さんにはかつらの使用についての説明をあらかじめ行ってあったが、用意はしていなかった。A さんに対する看護師の助言で最も適切なのはどれか。
 1. 脱毛が始まったら、かつらの用意はできないと伝える。
 2. 刺激の少ないシャンプーの使用を勧める。
 3. パーマやカラーリングを勧める。
 4. 治療が済めば、元に戻るから気にしないように伝える。

次の文を読み 4～6 の問いに答えよ。

A さん（78 歳、女性）は、一人暮らしである。腰部脊柱管狭窄症の診断を受けているが、ほかに既往はない。ADL は自立しているが、腰痛のために間欠性跛行があり、最近不活発になっている。

4 A さんの症状の説明で正しいのはどれか。

1. 突然、四肢にまったく力が入らなくなることがある。
2. 両足を開き、上体を揺らしながら歩く。
3. 患側の骨盤が上がり、体幹が傾く。
4. ある程度歩行しては休憩を繰り返す。

5 痛みが激しくなったため受診したところ、硬膜外麻酔が行われ、コルセットを使用することになった。A さんは、「コルセットをつけるとお腹が苦しくなって食事ができなくなる」と使用に難色を示している。

看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 「我慢しないと動けなくなりますよ」とたしなめる。
2. 「大丈夫、すぐ慣れますよ」と明るく励ます。
3. コルセットを装着させて状態を確認する。
4. あまり刺激せず、本人がその気になるまで見守る。

6 A さんの日常生活を支援するために必要な援助はどれか。

1. 腰をひねる運動を指導した。
2. 外出は控えるように注意した。
3. 手押し車などは使用しないように説明した。
4. 地域包括支援センターについて説明をした。

次の文を読み 7～9 の問いに答えよ。

A さん（75 歳、女性）は、同年齢の夫と二人暮らしである。既往歴はとくにない。娘が 1 人いるが、結婚して離れ暮らし、月に 1 度程度、孫を連れて訪ねて来る。A さんは孫が来るのを楽しみにしており、孫が来るといつも嬉しそうに話しかけ、片時も離れようとしないくらいであった。A さんは半年くらい前からよく転ぶようになった。A さんの娘は、A さんの夫から「昨日も転んでいた。けがはたいしたことはないが、どうも様子がおかしいので見に来てほしい」と電話を受け、孫を連れて 3 週間ぶりに A さん宅を訪問した。A さんは不安げで、孫を見ても表情も変えず話しかけもしなかった。

7 娘はいつもと違う A さんの様子にとまどい、注意して観察すると、動作が緩慢で、小刻み歩行や手が震える等の症状がみられた。突然、壁に向かって「あら、お母さん、いつから来ていたの」と言い出した。A さんの夫は「ときどき変なことを言い出すので困っている。夜も眠っているのに大きな声で話したり、物忘れも激しいし、認知症ではないかと心配している」と娘に言った。話し合いの結果、近くの精神科外来を受診した。診察の結果、認知症が疑われ、認知症専門外来の受診を勧められた。歩行障害や手の震えはパーキンソン症状であると言われた。A さんの症状から最も疑われる認知症はどれか。

1. アルツハイマー型認知症
2. 血管性認知症
3. 前頭側頭型認知症
4. レビー小体型認知症

8 2 週間後、近くの精神科外来から紹介してもらった認知症専門外来に A さんを受診させるために娘が再び A さんの家を訪問した。A さんは「家に知らない人がいて何かを探している。大事なものを盗まれたに違いない」と不安げに話す。夫が「そんなわけにじゃないか。いったいどこにいるというのだ」と言うと、「なにいつているの！今ここにいたじゃない」と厳しい表情で夫を見た。A さんの夫は「どうしたらいいのか」と途方に暮れている。認知症専門外来で医師の診察を待っているときに、外来看護師に娘が A さんへの対応について相談した。外来看護師の A さんの家族への助言として適切なのはどれか。

1. 「間違いは、はっきりと否定してよいですよ」
2. 「室内の照明は蛍光灯で統一したほうがよいですね」
3. 「『私がついているから大丈夫』と言ってあげてください」
4. 「水分摂取量を確認してください」

9 3 か月後、A さんの歩行困難や手の震えは悪化し、箸が自分で使えなくなったため、夫が食事介助をするようになった。尿失禁もあり、被害妄想的な発言が多くなり、夜間眠りながら大声で怒鳴り夫をたたいたりすることもあった。夫は娘に毎日電話をかけてきて悲痛な声で「ずっと一緒に生きてきたから最後まで面倒をみたいと思っていたが、辛くてもう限界だ。介護殺人のニュースを見ると他人事とは思えない。今まで一緒に頑張ってきたから最後まで面倒をみたいけれど、その前に自分が倒れてしまいそうだ」と話す。認知症専門外来の主治医に相談すると重度認知症患者デイ・ケアの利用を勧められた。A さんが利用する重度認知症患者デイ・ケアについて正しいのはどれか。

1. 介護保険の要介護認定を受ける必要がある。
2. 1 日 8 時間以上の利用ができる。
3. 趣味を生かしたアクティビティリハビリが中心となる。
4. パーキンソン症状の軽減を主な目的とする。

次の文を読み 10～12 の問いに答えよ。

A さん（27 歳、初産婦）は、昨日の午前 5 時に妊娠 40 週 0 日で体重 3332g の男児を自然分娩した。分娩所要時間は 14 時間 28 分、分娩第 4 期までの出血量は 325mL であった。

10 A さんの状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 過期産である。
2. 巨大児である。
3. 分娩時出血は正常である。
4. 遷延分娩である。

11 分娩後 4 時間、体温 36.9 度、脈拍 68/分、血圧 110/70 mm Hg である。子宮底臍下 2 横指で硬度良好、赤色悪露 28g、尿意はない。A さんは下腹部痛を訴えている。

A さんの状態のアセスメントとして適切なのはどれか。

1. 弛緩出血がみられる。
2. 子宮復古は順調である。
3. ただちに導尿が必要である。
4. 子宮内感染が考えられる。

12 産褥 3 日、体温 37.2 度、脈拍 70/分、血圧 114/72 mm Hg、子宮臍下 3 横指である。乳管開口は左右とも 4～5 本で母乳の分泌は良好である。分娩後、排便がみられず、「お腹が張った感じで不快です」と言っている。A さんに対する看護で適切なのはどれか。

1. 安静臥床させる。
2. 授乳を中止させる。
3. 下腹部の冷罨法をする。
4. 水分摂取を促す。
5. 食事量を減らす。

次の文を読み 13～15 の問いに答えよ。

A くん (9 歳、男児) は、校庭の遊具から転落し、担任教員に連れられて受診した。写真は右上肢の外観と X 線検査の画像である。



13 受診時、A くんは疼痛を訴え、肘関節部の腫脹がみられていた。

A くんの状態のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 肘関節をひねったためである。
2. 小児なので骨癒合が不良である。
3. 外反肘を合併しやすい。
4. フォルクマン拘縮に注意する。

14 A くんは骨折に対して徒手整復が施行され、ギプス固定された。母親が到着すると、担任教員は「これで今年に入って何度目のけがでしょうね。本当に落ち着きがなく、授業中も座っていただけず、注意しても聞かなくて困ります。お家でしっかり言い聞かせてほしいです」と厳しい口調で言った。母親は小さな声で「すみません」と言ったままうなだれている。A くんは母親の顔を見るところれしそうに笑い、絶えず手足を動かしている。

この状況に対するアセスメントとして適切なのはどれか。

1. A くんは学校で反抗的である。
2. A くんには発達障害がある可能性がある。
3. A くんは教員におびえている。
4. 教員は A くんの状態をよく理解している。
5. 母親は教員に対して怒りをこらえている。

15 入院中、A くんは身体を清拭していると、背部や下肢の数カ所に青いあざがあった。どうしたのか尋ねると、A くんは「お父さんに蹴られた」と答えた。面会に来た母親に尋ねると青ざめて、「この子が近所でもトラブルばかり起こすので、夫が腹を立てて体罰を加え始めました。一度手を出すと止まらなくなるみたいで、どうしたらよいか・・・」と涙ぐんでしまった。看護師の対応で適切なのはどれか。

1. 警察に通報する。
2. 児童相談所に通告する。
3. 母親に「どうして守ってあげないのですか」と聞く。
4. 母子福祉施設への入所を勧める。

次の文を読み 16～18 の問いに答えよ。

A さん（35 歳、男性）は、妻と幼稚園に通う男児の 3 人暮らしである。学生時代からつきあっていた妻によると、当時から突然行動的になって周囲とトラブルを起こしたかと思うと、一転して気分が落ち込み、活動しなくなるようなことが周期的にあったが、結婚後は比較的落ち着いて会社勤めをしていた。ところが、2 か月ほど前から不眠を訴え、突然無断で会社を休んで車で出かけて何日間も帰らないかと思うと、高額な買い物を次々にするなどの行為がみられるようになった。A さんは心配した会社の上司と妻に付き添われて精神科を受診した。

16 A さんは診察室では非常に多弁で落ち着かず、「私は病気ではありません。会社を休んで高額な買い物をしていたのは新しい発明に必要なためです。これで会社は世界一になります。このことを上司や妻に説得してもらえませんか」と医師に訴えた。治療を拒否し、興奮しているため、妻の同意により入院することになった。A さんにみられる症状はどれか。

1. 関係妄想
2. 誇大妄想
3. 血統妄想
4. 心気妄想

17 A さんは躁状態と診断され、炭酸リチウム 400 mg/日の投与が開始された。症状の観察で最も注意すべきなのはどれか。

1. 口渇
2. 便秘
3. 振戦
4. アカシジア
5. 健忘

18 A さんの状態を心配した妻が面会に来て、今後どうしていったらいいのかと不安を訴えた。不安な気持ちを聞き取ったあとの病棟看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 「症状は再発しません」と安心させる。
2. 「今後も定期的に入院治療をしましょう」と伝える。
3. 「会社に復帰するまえに施設で訓練しましょう」と促す。
4. 「症状が悪化する徴候を見逃さないようにしましょう」と指導する。

次の文を読み 19～21 の問いに答えよ。

A さん（83 歳、女性）は、身長 145 cm、体重 32 kg で、長男夫婦と一緒に暮らしている。脳梗塞後遺症による左片麻痺と軽度の嚥下困難がある。杖歩行で室内の移動が可能であり、日中は椅子に腰かけてテレビを見ていることもあるが、ベッド上で寝ていることが多い。要介護 2 で、現在は訪問看護のみ利用している。

19 A さんの食事に対する援助について家族への指導で適切なのはどれか。

1. 一口ずつ口に運ぶように声をかけ、嚥下を見守る。
2. 水やお茶はストローを使用して摂取させる。
3. すべて軟らかい半固形食とし、全介助でゆっくりと摂取させる。
4. 食後はただちに仰臥位をとらせ、安静にする。

20 A さんは家の周囲の散歩を希望している。

1. A さんの前方に立って誘導する。
2. 杖の先端は摩擦を小さくするため細かいものを選ぶ。
3. 平坦な床では杖を出してから右足を出すように助言する。
4. 無理をせず、疲れたら休む。

21 A さんは家の周りを息子の妻と一緒に歩くことを楽しんでいる。

A さんの活動の拡大のために利用できる介護保険サービスで適切なのはどれか。

1. デイケア
2. ショートステイ
3. 訪問看護
4. 居宅療養管理指導

次の文を読み 22～24 の問いに答えよ。

A 県中部では集中豪雨のために、山間部の集落が孤立している。住民が避難場所に指定されている小学校の体育館に集まってきた。地区の診療所に勤務する医師と看護師も避難場所にいる。

22 地区の診療所の看護師がとる行動として最も優先するのはどれか。

1. 避難場所内で負傷者の有無を確認する。
2. 災害医療チームの指示を待つ。
3. 診療に必要な物品を確認する。
4. ラジオなどで災害情報を確認する。

23 天候は改善せず、避難所での生活が 3 日目を迎えた。食糧は行政の備蓄品が配給されている。看護師が確認したところ、避難所にいる慢性疾患の患者は、全員が使用している薬剤の携帯ができていた。

この時点で看護師が確認することとして最も優先されるのはどれか。

1. 妊娠 3 か月の妊婦のつわり
2. 統合失調症患者の妄想
3. 糖尿病患者の体重
4. 腎不全患者の食事

24 避難生活が始まって 1 週間後、天候が回復し、避難勧告・指示の解除が始まった。ほとんどの家屋が床上浸水していた。

自宅での状態を心配している住民に対して、看護師が助言することとして適切なのはどれか。

1. 家は通風をよくして乾燥させる。
2. 浸水で汚れた床は丁寧に水拭きする。
3. 水道水は安全である。
4. 水をかぶった食品は必ず加熱してから食べる。

次の文を読み 25～26 の問いに答えよ。

A さん（40 歳、経産婦）は不正性器出血に気づき、婦人科を受診した。検査の結果、子宮頸癌 I a 期と診断され、膣式単純子宮全摘術が行われることになった。

25 A さんの発癌と関係が深いのはどれか。

1. ヘリコバクターピロリ
2. ヒトパピローマウイルス
3. EB ウイルス
4. HTLV-1

26 A さんの術後に注意して観察するのはどれか。

1. 下肢の麻痺
2. 下肢の浮腫
3. 排尿障害
4. イレウス

次の文を読み 27～28 の問いに答えよ。

A さん（30 歳、経産婦）は、身長 160 cm、体重 90 kg である。前回の妊娠時に糖尿病と診断されている。二度の教育入院をしているが、食事療法が守れていないため、経口血糖降下薬による治療が行われている。月経停止で受診し、妊娠 8 週 0 日と診断された。

27 A さんの妊娠におけるリスクとして正しいのはどれか。

1. 妊娠高血圧症候群
2. 胞状奇胎
3. 新生児高血糖症
4. 新生児低ビリルビン血症

28 妊娠による A さんのリスクを低下させるために行うのはどれか。

1. 経口血糖降下薬を増量する。
2. インスリンを使用する。
3. 食事制限を厳しくする。
4. 母乳育児は禁止とする。

次の文を読み 29～30 の問いに答えよ。

A さん（30 歳、女性）は 20 歳から統合失調症で入退院を繰り返している。現在は症状が落ち着いているため、自宅で 60 歳の母親と 2 人暮らし、家事や服薬管理はすべて母親が行っている。

29 母親が手術のために入院することになり、A さんの健康管理について心配しているため、訪問看護を利用することになった。訪問看護に加えて利用する社会資源として適切なのはどれか。

1. グループホーム
2. 福祉ホーム
3. 就労移行支援
4. ホームヘルプサービス

30 訪問看護師が A さんを訪ねると、A さんは泣いていた。看護師が「どうしましたか」と尋ねると、A さんは「大勢の人が私のことをばかにして笑っている」と言う。周囲は静かな住宅街で人通りも少なく、声も聞こえていない。

1. 「それはひどいですね」
2. 「お薬は飲んでいますか」
3. 「そんな声は気のせいですよ」
4. 「苦情を言ったらどうですか」
5. 「お母さんがいなくて寂しいのですね」